

平成 27 年度 三重県専修学校協会 教職員研修報告書

文部科学省委託事業

「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」 「学校評価の充実」事業

日 時 平成 27 年 11 月 28 日（土）14 時 45 分～16 時 45 分

場 所 津市 私学青少年会館 3F 大研修室

参加者 来賓 三重県環境生活部私学課 主幹 石崎 淳 様
他 23 名（別紙参照）

事項書

- 1、 文部科学省 「学校評価ガイドライン」について 衣斐 信行
—— 出来る事から 始めよう ——
- 2、 文部科学省資料DVD 鑑賞
- 3、 事例発表 林田 淳子
鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校の学校評価・自己点検について
- 4、 グループワーク
課題別に各グループで討議
Aグループ 学校評価・点検
Bグループ 教員の自己評価・点検
Cグループ 学生の自己点検・教員評価
- 5、 成果発表（各グループ別）
- 6、 講評 三重県環境生活部私学課 主幹 石崎 淳 様

報告書

1、 文部科学省 「学校評価ガイドライン」について 衣斐 信行 —— 出来る事から 始めよう ——

三重県専修学校協会の参加者で、学校評価実施校は現在2校であった。この研修会で全国平均の実施数とする事をめざしたい。

専修学校の学校評価は、平成19年の学校教育法及び同施行規則の改正により

- ① 自己評価の実施・結果の公表に関する義務
- ② 学校関係者評価の実施・結果の公表に関する努力義務が課せられている ことを改めて確認して頂く。

私立専修学校の学校評価の取り組み状況について、自己評価を実施している専修学校は62.2%、その公表は17.1%である。

学校評価の課題は実施体制の構築で行き詰まるようである。最初はトップダウンで実施することをお勧めする。また実施方法に関する知識の取得が難しいようだが、出来る事と出来る内容から始めてみる。評価要員については、確保は難しいとの事であるが、これも2回以降評価要員を構成していくくらいの気持ちで、とにかくトップダウンで実施して頂きたい。

評価項目についてはガイドライン30頁を参考にしてほしい。が、この項目も、自校にあった項目を取捨選択し出来る項目からスタートすることです。

2、 文部科学省資料DVD 鑑賞 省略

3、 事例発表

林田 淳子

鈴鹿オフィスワーク医療福祉専門学校の学校評価・自己点検について

本校の自己評価については、以下の3つの評価を行っています。

- ①学校評価・点検
- ②教員の自己評価・点検
- ③学生の自己点検・教員評価

①学校評価・点検について

評価項目

テキスト「専修学校における学校評価、ガイドライン」のP34～40に載っている評価項目を活用

ただし、全ての項目でなく、学校の重点目標に沿った項目のみを設定
(別紙参照)

実施の手順

全教職員に各自の学校に対する評価をつけてもらう

4,5日後に回収、結果を分析

その分析を受けて校長が学校としての評価をつける

幹部で課題と改善策を話し合い、取りまとめる

学校関係者評価会議で提示し、意見をもらう

今年度はまだ課題と改善策について、幹部のみでの取りまとめとなっており、教職員全体での議論にいたっていない。議論の場を設け、よりよい学校作りにつなげたい。

②教員の自己評価・点検について

「H27年SOC自己評価表」（別紙参照）

本校オリジナルで作成

一部、テキスト「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて」
のP20～23に載せられている評価項目を参考

評価点5～1は5が最上点

実施の手順

事前に実施日を教職員に伝えておく

朝礼後に配布、30分くらいの時間を取り評価を行う

ほとんどの教職員はその場で提出、後で持ってくる者も数名あり

所感やコメント欄にも多数の意見が記入されていた

なお、この評価については、人事考査などでの査定にも参考にしている

③学生の自己点検・教員評価について

「学生アンケート」（別紙参照）

本校オリジナルで作成

一部、テキスト「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて」の P20～23 に載せられている評価項目を参考

評価点 1～5 は 5 が最上点

評価項目のうち 4 項目は教員の自己評価と同じ項目を設定。教員側からみた評価と学生側からみた評価を比べることができ、意識の違いをみることができる。指導の見直しを行ったり改めることができます。

実施の手順

事前に実施日を学生に伝えておく

授業中に 30 分くらいの時間をとりアンケートを行う

実施にあたっては教員とは別の評価を受けない職員が担当

自由記述欄があるため、このアンケートは教員は直接見ないことを伝え、筆跡で本人と分かることはないと説明しました

アンケートは教員一人につき一枚

一枚ずつ配り、全員が一枚書き終えたら次を配布

「医療秘書科」と「介護福祉科」、両方の科を担当している教員は、両方の学生から評価を受けます

学生には周りとは相談せず書くよう指導→静かに真面目に回答していた結果の分析は項目ごとに平均点を出す

自由記述欄に上がった意見も全て打ち直して教員にフィードバック

学生はアンケートに書いたことに対して教員からの反応を期待していません。学生の意見にきちんと向き合っって適切な対応が必要

評価結果の公表については、本校ホームページで公表しています。公表の仕方についてはそちらをご参考ください。

まだまだ評価体制として不十分なところはありますが、みなさまが評価に取りかかるきっかけになれば幸いです。

4、5、 グループワーク

課題別に各グループで討議 意見発表 意見の要約

Aグループ 学校評価・点検 (主に管理者)

- *項目1～4は分かりにくい
- *長期的でなく、5年単位で考えることが必要
- *個人情報に伴い、コンプライアンスの項目を増やしたい
- *就職実績項目に正規、非正規かも加えたい
- *防災項目も必要だ

Bグループ 教員の自己評価・点研 (主に管理職)

- *教員の科目をもっと多くしたい
- *広報担当者、事務職員も、教員と別枠で付け加えたい
- *技術面の評価があった方が良い

Cグループ 学生の自己点検・教員評価 (主に教員)

- *実施方法で、5段階は分かりにくいので、言葉で表現したらどうか
- *提出物の期限が守られたか、清潔感のある服装の項目、行事の評価があればよい

6、講評

三重県環境生活部私学課 主幹 石崎 淳 様

学校評価の実施に向けての良い機会になったと思う。実施・公表は義務化されているが、全国平均は60%です。また三重県の実施率も60%です。先生からアンケートを取って意見集約し、まとめて分析することも考えられるが実施が大変である。また、評価項目が適切かどうか、余分な項目も実施するとなると、実施が余計に難しい。まして外部アンケートももっと実施を困難にすると思います。

自分の学校に必要な物を選んで実施していくことが望ましいと個人的に考えます。